## 国際観光学科 2年 後期 専門基礎科目/専門科目

- 1. インターン実務英語実践演習
- 2. 海外インターン実習
- 3. 海外インターン実習事後指導

## 国際観光学科

国際観光字科									
科目名: インターン実務英語実践演習				担当	i教員 氏名:	齋藤 望、齋	腎藤 ティム		
単 位	開講明	寺期(年次·期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門基礎科目	演習	必修				
うな授業を行っているか: 導を行う。 授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
オーストラリアインターンの内、事前に各人設定の英語実践目標に照らし合わせて、業									
務や現地経験を通してより実践的なビジネス英語の習得をする。さらに本学からの担当									
教員による指導を行う中で、さらに効果的な演習になるような目標の見直しを行う。  特別措置による国内インターンの場合も同様だが、加え、オーストラリアでの英語の実						観光英語、	コミュニケーション	カ	
	践経験を補うための追加英語学習(特にSpeaking)の強化を行う。								
授業における学修の到達目標 学習教育日標 自己形成を進める行動目標 1.000.1000									
(卒業	学習教育 認定·学位授与σ		自己形成を進める(福短マトリックスでき	る行動目標 示される番号)	1, 2, 3, 4, 5	. 8			
B 専門的技術 社会貢献・自己実現に技術が				「活用できる。					
D 問題解》	夬力		問題を同定し、解	決に必要な	情報を収集・分	析・整理し、	その問題を確実に	に解決できる。	
E 自己管理	里力		自らを律して行動	できる。					
F チームワーク・リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、イ 員できる。				きる。また、他者	首に方向性を	示し、目標の実現	のために動		
Acco.									
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点					に従い、60点以	以上を単位認	定とする		
テスト: % レポート: 35 % 発表: 35 % 実技試験:					%	その他: 30	%		
アクティブラーニング要素:									
アクティフラーニンク要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
示意所の生子目									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
課題提出後に、個別にフィードバックを行う。 準備学習(予習・復習等)									
		授 業	計画			ď	学習内容 学習に必引 時間(分		
①イントロタ	「クションおよ	び目標設定				個人目標設定 60分		60分	
②実践ビジネス英語 (Listening) I					指摘事項のReview		60分		
③実践ビジネス英語 (Reading) I					指摘事項のReview		60分		
④実践ビジ	ネス英語(Sp	peaking)I				指摘事項のReview 60分		60分	
⑤実践観光ビジネス英語(Speaking)I						指摘事項のReview 60分		60分	
⑥実践観光ビジネス英語(Speaking)II								60分	
⑦実践観光ビジネス英語(Speaking)III						·		60分	
⑧実践観光ビジネス英語(Speaking)IV						指摘事項のReview 60		60分	
		吾(Speaking)V				指摘事項のReview (		60分	
⑩実践ビジネス英語 (Listening)Ⅱ							60分		
⑪実践ビジネス英語 (Reading)Ⅱ							60分		
⑪実践ビジネス英語 (Speaking) II							60分		
⑬実践ビジネス英語 (Speaking) III					指摘事項のReview 60分		60分		
	ネス英語(Sp	peaking)振り返り				指摘事項のReview 60分		1	
⑤まとめ						指摘事項の	Review	60分	
使用テキスト: なし その他参考文章					献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

国際観光学科

単 位	科目の区分 授業方法 (卒業要件) 必修 専門科目 実習 必修 ターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効う。 キーワード を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについ 人間的な成長を期するために実施する。 変の6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅び業界の実態、将来に向けた方向性についても 人目標に対する自己評価、指導社員評価、教託には、現地指導社員、指導教員による総括評で成長する、②海外で働くことを理解する、③英 自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 1、2、3、4、5、6、7、8、9 社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。	専門科目 実 マーン派遣経験や、オース から。 通じて、顧客とは何か、代 人間的な成長を期するための6ヶ月間にわたる実習を業界の実態、将来に向け、1号標に対する自己評には、現地指導社員、指導成長する、②海外で働くこ	開講時期(年次・期)  「生次 後期  「ことのよいるか・異的な授業を行う。」 「教育目標の概要・「分野における実践活動を込みない。」 「大先進国オーストラリアでの表現で、様々個人に実施ける。実習終了時に実施する。実習終了時にといて問として原習の目標は、①人間として原	単 8 実務で 授 観でまって 要 が で 業 光考体会 ぶ評で まった しゃった で まった いれ ま に 木 た 目 で まった は まった まった は まった まった は まった は まった は まった は まった まった まった は まった は まった は まった まった は まった まった は まった は まった		
8 2年次 後期 専門科目 実習 必修  実務経験を用いてどのよ。果的な授業を行う。 提業科目の学習教育目標の概要: キーワード 観光産業界の各分野における実践活動を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。 具体的には、親先先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は、旅行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、数算性のできたのに実施する。実習を行う。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英語力を高める、である。  1 学習教育目標 (年業設定・学位授与の方針との関連) 1、2、3、4、5、6、7、8、9  中国的技術 社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。  D 問題解決力 インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を開まる。一般表に理解を深めコミュニケーションができる。  成積評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする  大成積評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする  大大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	専門科目 実習 必修 ターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効う。 キーワード を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについ 人間的な成長を期するために実施する。 での6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅 業業界の実態、将来に向けた方向性についても 人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 には、現地指導社員、指導教員による総括評 で成長する、②海外で働くことを理解する、③英 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1、2、3、4、5、6、7、8、9 社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。	専門科目 実 マーン派遣経験や、オース から。 通じて、顧客とは何か、代 人間的な成長を期するための6ヶ月間にわたる実習を業界の実態、将来に向け、1号標に対する自己評には、現地指導社員、指導成長する、②海外で働くこ	年次 後期  だどのよ 過去の海外インタ・ しるか: 果的な授業を行う。  教育目標の概要: 分野における実践活動を いるか。   の強み、弱みに気づき、人 光先進国オーストラリアでの 、国立公園などで、様々個人 に実施する。実習終了時に といて問題の目標は、①人間として の目標は、①人間として の	8 実務ででは、 要務に、 を持ている。 を表する。 をまる。 をまる。 をまる。 をまる。 をまる。 をまる。 をまる。 をま		
実務経験を用いてどのような授業を行う。  提業科目の学習教育目標の概要:  提業科目の学習教育目標の概要:  開光産業界の各分野における実践活動を通じて、願客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。 具体的には、観光先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は旅行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても、学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、教員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英語力を高める、である。  「学習教育目標(海東認定・学位長与の方針との関連)  お 専門的技術  本会 表述の各行動目標(海東記定・学位長与の方針との関連)  お 中間的技術  本会 表述の各行動目標(海東記定・学位長与の方針との関連)  本会 表述の各行動目標(海東記定・学位長与の方針との関連)  ま 中間的技術  本会 責託・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。  インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問が確実に解決できる。  「大会 表述を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。  成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする  テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 %  特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。	ターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効う。  キーワード  を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについ 人間的な成長を期するために実施する。 での6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅 は業界の実態、将来に向けた方向性についても 人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 には、現地指導社員、指導教員による総括評で成長する、②海外で働くことを理解する、③英  自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号)  1、2、3、4、5、6、7、8、9  社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。	スーン派遣経験や、オース う。 通じて、顧客とは何か、仕 人間的な成長を期するたる の6ヶ月間にわたる実習を 業界の実態、将来に向け、 、目標に対する自己評価 には、現地指導社員、指導 成長する、②海外で働くこ	でどのよより、	実務経験を行うので、観光者体会が、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では		
実的な授業を行っているか:   実的な授業を行う。   提業科目の学習教育目標の概要:	き通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについ 人間的な成長を期するために実施する。 での6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅 は業界の実態、将来に向けた方向性についても 人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 には、現地指導社員、指導教員による総括評 で成長する、②海外で働くことを理解する、③英	通じて、顧客とは何か、付人間的な成長を期するための6ヶ月間にわたる実習を来に向け、上目標に対する自己評価には、現地指導社員、指述成長する、②海外で働くこ	(とのよ)果的な授業を行う。  教育目標の概要:  分野における実践活動を込め強み、弱みに気づき、人光先進国オーストラリアでの は国立公園などで、様々な美 指導において設定した個人に実施する。実習終了時に	うな授業を行 授業科目の記 観光産業界に 大きえいのでは、また、 具体会社、また、 学がぶ。価値で していた。 していた。 はないでは、 もないでは、 もないでもないでは、 もないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないで		
観光産業界の各分野における実践活動を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。 具体的には、観光先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅 行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、押架に向けた方向性についても 学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英 語力を高める、である。  1	を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについ 人間的な成長を期するために実施する。 での6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅 は業界の実態、将来に向けた方向性についても 人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 には、現地指導社員、指導教員による総括評 で成長する、②海外で働くことを理解する、③英	人間的な成長を期するための6ヶ月間にわたる実習を業界の実態、将来に向け、目標に対する自己評価、には、現地指導社員、指導成長する、②海外で働くこ	・分野における実践活動を たの強み、弱みに気づき、人 光先進国オーストラリアでの 、国立公園などで、様々な勢 指導において設定した個人 に実施する。実習終了時に 習の目標は、①人間として原	観光産業界のでは、本ラ学が、また事員を受ける。		
て考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。 具体的には、観光先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は放 行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても 学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英語力を高める、である。  1  学習教育目標 (企業認定・学位授与の方針との関連)  日 専門的技術  中 専門的技術  中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	人間的な成長を期するために実施する。 での6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は旅 業界の実態、将来に向けた方向性についても 人目標に対する自己評価、指導社員評価、教 には、現地指導社員、指導教員による総括評 で成長する、②海外で働くことを理解する、③英  自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)  社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。	人間的な成長を期するための6ヶ月間にわたる実習を業界の実態、将来に向け、目標に対する自己評価、には、現地指導社員、指導成長する、②海外で働くこ	5の強み、弱みに気づき、人 光先進国オーストラリアでの 、国立公園などで、様々なし、 語違において設定した個人 に実施する。実習終了時に との目標は、①人間として原	て考え、また具体的には、行会社、ホラ学ぶ。また事員評価を見ける。		
B 専門的技術       社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。         D 問題解決力       インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を開発できる。         H コミュニケーションカ       言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。         成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とするテスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 %         特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。	社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。			1		
D 問題解決力       インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問確実に解決できる。         H コミュニケーション力       言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。         成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする         テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 %         特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。		学習教育目標 ( 卒業認定・学位授与の方針との関連) 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1、2、3、4				
日 問題解決力 確実に解決できる。  H コミュニケーションカ 言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。  成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 %  特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。	インターン宇型での問題を同党! 報油に必要か結婚を制作・公共・数理! その問題を					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする  テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 % 特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。			11) 問題解決力			
テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 % 特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。	言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。	言語や身体を用いて自				
テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 % 特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。						
テスト: % レポート: 50 % 発表: % 実技試験: % その他: 50 % 特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。						
	59評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
	) % 発表: % 実技試験: % その他: 50 %	% 発表:	% レポート: 50	テスト:		
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:テストはない。 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:指導社員との定期連絡やリポートにより課題の解決を図る。	朝:テストはない。					
#編学習(予習·復習等)	準備学習(予習·復習等)	· = 1 · ==	T42. AVE			
ナロバタ 時間(4	学習内容 学習内容 時間(分)	:計画	技 耒			
		いて	①イントロダクション:インターンシップについて			
②オーストラリアインターンシップ実習			②オーストラリアインターンシップ実習			
			インターンシップ実習	③オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習	④オーストラ		
		⑤オーストラリアインターンシップ実習				
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習			107 007086			
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習				⑥オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習 ⑤オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習			
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習 ⑤オーストラリアインターンシップ実習 ⑥オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習	⑦オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習  ④オーストラリアインターンシップ実習  ⑤オーストラリアインターンシップ実習  ⑥オーストラリアインターンシップ実習  ⑦オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習  ④オーストラリアインターンシップ実習  ⑤オーストラリアインターンシップ実習  ⑥オーストラリアインターンシップ実習  ⑦オーストラリアインターンシップ実習  ⑧オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑨オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習  ④オーストラリアインターンシップ実習  ⑤オーストラリアインターンシップ実習  ⑥オーストラリアインターンシップ実習  ⑦オーストラリアインターンシップ実習  ⑧オーストラリアインターンシップ実習  ⑨オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑨オーストラ ⑩オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習 ⑤オーストラリアインターンシップ実習 ⑥オーストラリアインターンシップ実習 ⑦オーストラリアインターンシップ実習 ⑧オーストラリアインターンシップ実習 ⑨オーストラリアインターンシップ実習 ⑨オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑨オーストラ ⑩オーストラ ⑪オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習  ④オーストラリアインターンシップ実習  ⑤オーストラリアインターンシップ実習  ⑥オーストラリアインターンシップ実習  ⑦オーストラリアインターンシップ実習  ⑧オーストラリアインターンシップ実習  ⑨オーストラリアインターンシップ実習  ⑩オーストラリアインターンシップ実習  ①オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑨オーストラ ⑩オーストラ ⑪オーストラ ⑪オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習 ⑤オーストラリアインターンシップ実習 ⑥オーストラリアインターンシップ実習 ⑦オーストラリアインターンシップ実習 ⑧オーストラリアインターンシップ実習 ⑨オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ②オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑨オーストラ ⑩オーストラ ⑪オーストラ ⑪オーストラ ⑫オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習 ⑤オーストラリアインターンシップ実習 ⑥オーストラリアインターンシップ実習 ⑧オーストラリアインターンシップ実習 ⑨オーストラリアインターンシップ実習 ⑩オーストラリアインターンシップ実習 ⑪オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ②オーストラリアインターンシップ実習			インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑨オーストラ ⑪オーストラ ⑪オーストラ ⑫オーストラ ⑬オーストラ ⑬オーストラ		
③オーストラリアインターンシップ実習 ④オーストラリアインターンシップ実習 ⑤オーストラリアインターンシップ実習 ⑥オーストラリアインターンシップ実習 ⑦オーストラリアインターンシップ実習 ⑧オーストラリアインターンシップ実習 ⑨オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ①オーストラリアインターンシップ実習 ②オーストラリアインターンシップ実習 ②オーストラリアインターンシップ実習 ②オーストラリアインターンシップ実習 ②オーストラリアインターンシップ実習 ③オーストラリアインターンシップ実習 ③オーストラリアインターンシップ実習	子の仙糸孝文誌たど・		インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習 インターンシップ実習	⑦オーストラ ⑧オーストラ ⑩オーストラ ⑪オーストラ ⑪オーストラ ⑫オーストラ ⑪オーストラ ⑪オーストラ		

受講上の留意点(担当者からのメッセーン):
コロナなどの外部要因の影響も鑑み、オーストラリアでのインターンシップ実習の期間を設定する。また、基本的には全員オーストラリアでのインターンシップ実習になるが、ワーキングホリデービザ取得などの条件により渡航が難しい学生については、特別措置(国内インターンシップ実習)を設定する。インターンシップ実習(オーストラリアおよび国内)の内容については、コロナの影響や外部要因もあり、変更されることがある。インターンシップ実習を通して、楽しい経験だけではなく、時には心が折れそうになることもあるかもしれないが、それらの様々な経験が自分の人間力を何倍にも大きくしてくれるだろう。ぜひポジティブに捉え、いろいろと主体的にチャレンジをしよう!

## 国際観光学科

科目名:	海外インター	ーン実習事後指導			担当	教員 氏名:	齋藤望、鷹	西恒、米田晶、烈	<b>寮藤ティム</b>
単 位	開講印	寺期(年次·期)	科目の区分	授業	美方法	(卒業要件) 必修/選択		備考	
1 2年次 後期			専門科目講義		義	必修			
		コロナ禍によりオー を十分に発揮して				こての実施とな	るが、各教員	の海外経験、観	光業従事経験
授業科目の	学習教育目	標の概要:						キーワード	
した自らの ンターンシッ う。	目標に対する プ先の指導	4日間の集中講義 、成果と反省をまと 者等の指導を受けた。	め、グループディ	スカッ	ション、	指導教員、イ	強味、弱。	みの把握、進路 新たな目標設	
授業におけ	る学修の到達	<b>達目標</b>							
(卒業	学修教育 認定·学位授与0		1, 2, 3, 4, 5, 8	3					
C 論理的原	思考力		情報、知識、経験	を複	眼的、詞	扁理的に分析し	、表現できる	0	
D 問題解》	や力	今後の生き方に1 題を確実に解決1			を同定し、解決	に必要な情報	報を収集・分析・	整理し、その問	
H コミュニ	ケーションカ	言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。							
成績評価の	方法•基準:	以下の方法により	評価し、学則およ	び履値	<b>多要項</b>	こ従い、60点り	上を単位認	定とする	
テスト:	%	レポート: 50	% 発表:	50	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:2	月3日~8日	までの集中講義							
アクティブラー 課題解え		ディスカッション、ディ	ィベート グルー	プワー	-D	ੑ	·ーション	実習、フィー	-ルドワーク
テスト・レホ゜ート	・発表・実技	試験等の実施時期:	インターン実習の	総括l	レポート	作成、その発	表		
課題(試験	やレポート等	)に対するフィードハ	「ックの方法:発表	の後、	指導教	対員、学生によ	るディスカッシ	<b>/ョン</b> 。	

授 業 計 画	準備学習(予習·復習等)		
K X II II		学習内容	学習に必要な時間(分)
①【齋藤·鷹西】PROGテスト実施	1月16日3限	PROGテスト実施準備	60分
②【齋藤・鷹西】PROGテスト実施	1月16日4限	PROGテスト実施準備	60分
③【米田】TOEIC IP テスト(L&R)	2月3日1限	TOEIC文法問題を復習する	60分
④【米田】TOEIC IP テスト(L&R)	2月3日2限	TOEIC文法問題を復習する	60分
⑤【齋藤・ティム】TOEIC IPテスト(Speaking)	2月6日1限	TOEICのSpeaking問題を復習する	60分
⑥【齋藤】海外インターン実習ふり返り(1,2年生合同)	2月6日2限	各自が体験したインターン実習について まとめる	60分
⑦【米田】PROGテスト結果の解説(米田)	2月6日3限	PROGテストの結果を読み込む	60分
⑧【米田】PROGテストと今後の活用法(米田)	2月6日4限	今後の能力開発と目標設定	60分
⑨【米田】海外インターン実習(国内実習)ふり返り	2月7日1限	国内実習ふり返り	60分
⑩【米田】グループディスカッション「2年間の成長」	2月7日2限	2年間の成長と将来やりたい100のこと	60分
⑪【ティム】総括	2月7日3限	2年間の英語の成長を振り返る	60分
⑫【米田】総括	2月7日4限	将来の夢を語ろう	60分
⑬【鷹西】総括	2月8日1限	2年間の学習を振り返る	60分
⑭【齋藤】総括	2月8日2限	将来の人生設計を考える	60分
⑮【齋藤・ティム】TOEICIPテスト(L&R)結果とフィードバック	2月8日3限	TOEICの結果を読み込む	60分
the state of the s			

使用テキスト: なし その他参考文献など: 受講上の留意点